

縮尺 20 万分の 1
土地保全図付属資料
(群馬県)

国土交通省土地・水資源局

目 次

1. 業務概要	
1.1 業務件名.....	2
1.2 業務の目的.....	2
1.3 業務の概要.....	2
1.4 業務の期間.....	2
2. 業務手順	
2.1 自然環境条件図	
2.1.1 業務内容.....	3
2.2 土地利用・植生現況図	
2.2.1 業務内容.....	4
2.3 災害履歴図	
2.3.1 業務内容.....	5
2.4 防災・土地保全等施設図	
2.4.1 業務内容.....	6
2.5 土地保全等関係指定区域図	
2.5.1 業務内容.....	7
2.6 土地利用動向図	
2.6.1 業務内容.....	8
3. 参考資料	
3.1 貸与資料.....	9
3.2 参考資料.....	9
4. 資料編	
4.1 本県に影響を与えた主な雷雨・集中豪雨・山崩れ・風害等	
4.2 本県に被害をもたらした地震	
4.3 浅間山噴火の歴史（昭和～平成）	
4.4 草津白根山の活動の歴史	

1. 業務概要

1.1 業務件名

平成 18 年度 20 万分の 1 土地保全図複製業務（Ⅲ） 群馬県

1.2 業務の目的

本業務は、自然災害及び環境保全のうち、土地に関する情報を整備し、防災や自然環境に配慮した土地利用計画の策定等の基礎資料を整備することを目的とする。

1.3 業務の概要

1/20 万土地分類基本調査成果「群馬」及び 1/20 万土地保全基本調査成果「群馬」を基に、平成 18 年度に県より提供を受けた資料の情報を加え、下記 6 種類の図の数値地図情報整備及び、印刷図の調製を行なった。

- ① 自然環境条件図
- ② 土地利用・植生現況図
- ③ 災害履歴図
- ④ 防災・土地保全等施設図
- ⑤ 土地保全等関係指定区域図
- ⑥ 土地利用動向図

1.4 業務の期間

平成 18 年 9 月 26 日から平成 19 年 3 月 20 日まで

2. 業務手順

2.1 自然環境条件図

2.1.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 万土地分類基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を作業環境にあうデータ形式に変換した。

土壌区分は、「ポドゾル」「グライ土」「泥炭土」の3分類を採用した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証したが、最大で5mm程度の位置ズレを確認したため、調整を行なった。

ただし、内陸部の位置ズレは判断が難しいので県界付近の修正に留めた。

3) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

4) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。

基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

5) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

6) 属性項目定義

納品主題データの属性項目について検討を行った。

7) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ (ESRI Shapefile 形式) を作成した。

また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

8) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ (CD-ROM) を格納。

2.2 土地利用・植生現況図

2.2.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 土地分類基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を作業環境にあうデータ形式に変換した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証したが、最大で 5mm 程度の位置ズレを確認したため、調整を行なった。

ただし、内陸部の位置ズレは判断が難しいので県界付近の修正に留めた。

3) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

4) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。

基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

5) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

6) 属性項目定義

納品用主題データの属性項目について検討を行った。

7) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ (ESRI Shapefile 形式) を作成した。

また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

8) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ (CD-ROM) を格納。

2.3 災害履歴図

2.3.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 万土地保全基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を、作業環境にあうデータ形式に変換した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証したが、明らかな位置ズレは認められなかった。

3) 県依頼の主題情報

貸与データ主題の出力図を作成し、県担当者に確認したところ、追加すべき主題情報が存在したが、位置特定が困難であったため図面には反映せず、土地保全図付属資料(本資料)へ掲載することにした。

4) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

5) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。
基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

6) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

7) 属性項目定義

納品用主題データの属性項目について検討を行った。

8) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ(ESRI Shapefile 形式)を作成した。
また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

9) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ(CD-ROM)を格納。

2.4 防災・土地保全等施設図

2.4.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 万土地保全基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を、作業環境にあうデータ形式に変換した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証し、河川形状と位置ズレが認められたダム関連主題について調整を行った。

3) 県依頼の主題情報

貸与データ主題の出力図を作成し、県担当者に確認したが、追加すべき主題情報は存在しなかった。

4) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

5) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。
基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

6) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

7) 属性項目定義

納品用主題データの属性項目について検討を行った。

8) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ (ESRI Shapefile 形式) を作成した。
また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

9) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ (CD-ROM) を格納。

2.5 土地保全等関係指定区域図

2.5.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 万土地保全基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を、作業環境にあうデータ形式に変換した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証したが、最大で 5mm 程度の位置ズレを確認したため、調整を行なった。

3) 県依頼の主題情報

貸与データ主題の出力図を作成し、県担当者に確認したが、追加すべき主題情報は存在しなかった。

4) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

5) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。
基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

6) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

7) 属性項目定義

納品用主題データの属性項目について検討を行った。

8) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ (ESRI Shapefile 形式) を作成した。
また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

9) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ (CD-ROM) を格納。

2.6 土地利用動向図

2.6.1 業務内容

1) 貸与データの変換及び確認

貸与された「1/20 万土地保全基本調査成果」(ESRI Shapefile 形式)を、作業環境にあうデータ形式に変換した。

2) 位置精度の調整

GISMAP200000R 及び 200000V を使用することについて承認を得て各主題データと位置精度を検証したが、最大で 5mm 程度の位置ズレを確認したため、調整を行なった。

ただし、内陸部の位置ズレは判断が難しいので県界付近の修正に留めた。

3) 県依頼の主題情報

貸与データ主題の出力図を作成し、県担当者に確認したが、追加すべき主題は存在しなかった。

4) 印刷凡例の検討

凡例項目に対して表現の検討を行った。

5) レイアウト・整飾の検討

表題、図郭線等の文字フォント・サイズについて検討を行った。

基図データ及び主題データを UTM 図法で投影し配置した。

6) 印刷

納品用印刷作業を行なった。

7) 属性項目定義

納品用主題データの属性項目について検討を行った。

8) データ変換

変換テーブルを使用し、数値データ (ESRI Shapefile 形式) を作成した。

また、座標については、世界測地系経緯度に基づいて作成した。

9) 成果品

図面箱に印刷図及び数値データ (CD-ROM) を格納。

3. 参考資料

3.1 貸与資料

- ・ 1/20 万土地分類基本調査成果
- ・ 1/20 万土地保全基本調査成果
- ・ 災害履歴資料
- ・ 平成 13 年度土地利用動向調査成果
- ・ 宅地造成規制区域図（群馬県）
- ・ 群馬県保安林配備図（群馬県）平成 13 年 3 月
- ・ 群馬の砂防（群馬県）平成 13 年 3 月
- ・ 群馬県内土砂災害発生箇所位置図（群馬県）昭和 51 年度～平成 14 年度

3.2 参考資料

- ・ 1/5 万 土地利用基本調査（群馬県）

4. 資料編

災害履歴 資料

4.1 本県に影響を与えた主な雷雨・集中豪雨・山崩れ・風害等

年月日	災害名	主 な 被害地域	被 害 状 況									
			死者	行方不明	負傷者	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	農業	土木	流出
24. 9. 22 ~24	低気圧に 伴う水害	全 域	人	人 1	人 9	棟 2	棟 3	棟 24	棟 149	ha 50	箇所 21	ha 1
25. 6. 9 ~14	梅雨前線に 伴う水害	全 域	1	1		1				735	7	
25. 7. 9	風 害	高 崎 市 岡 市 市 辺	1		11	13	198					
33. 8. 2	雷雨及び 暴風	伊 勢 崎 市 周 辺	1		3	6	7			100		
34. 7. 7	雷雨及び 暴風	南 東 部	1		3	11	7		73	30		400
35. 8. 2	雷雨及び 暴風	南 西 部	1				5				9	1
37. 8. 28	雷雨及び 暴風	中 部	1		2	1		25	701	7	18	
38. 3. 25	風 害	全 域	1	9		43	146					
38. 5. 22	風害及び ひょう	尾島町周辺	5		224	27	419					
38. 6. 30	雷 雨	全 域	2						200			
38. 8. 26	雷 雨	全 域			3			72	2,736	112		
41. 9. 11	雷 雨	笑郷町周辺	4		5		4	19	695	38	37	59
45. 1. 31	低気圧	全 域	1	1			20	6	48	74	6	
45. 8. 5 ~6	集中豪雨	高 崎 市 中 之 条 町			2	5	14	86	2,227	3	1	
47. 8. 2	集中豪雨 雷	伊 勢 崎 市 中 之 条 町 他	2		2	3	15	114		605		
49. 10. 6	山崩れ	榛名町	6		6	7			2			
50. 4. 14	山崩れ	水上町				5		3				
50. 6. 9 ~10	集中豪雨	昭和村周辺				1	5	84	616			
52. 7. 16 ~17	集中豪雨	太田市周辺			2			48	1,932	40		
53. 3. 1	強 風	南 部	1				1					
57. 6. 20 ~21	雷 雨	片品村 孺恋村	1						14		29	
57. 7. 24	がけ崩れ	長野原町			25							
58. 7. 27 ~28	集中豪雨	水上町 片品村	3		1	1		1	15		93	1
62. 7. 14 ~15	梅雨前線に よる豪雨	全 域	3					1	139	4	426	
62. 7. 25	集中豪雨	高 崎 市				1		1	29		17	
62. 9. 9 ~10	集中豪雨	中 央 部	1					38	328	211	105	
63. 8. 28 ~31	集中豪雨	全 域			3	2	1	32	485	96	757	
63. 9. 7 ~9	集中豪雨	全 域	1					7	32	2	159	
元. 9. 10 ~11	集中豪雨	西 部			2			2	47		24	
2. 9. 13	秋雨前線に よる豪雨	東 部						7	126		13	
3. 8. 12 ~13	集中豪雨	東 部					1	7	131		9	
5. 6. 20	集中豪雨	中 東 部 部 部						17	107		11	
6. 9. 17 ~18	集中豪雨	西 中 部 部 部						2	44	2	236	
7. 6. 14 ~16	集中豪雨	南 西 部 南 東 部			1			7	350		43	

年月日	災害名	主 な 被害地域	被 害 状 況									
			死者	行方 不明	負傷者	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農 業	土 木	流 出
8. 7. 3	集中豪雨	全 域	人	人	人	棟	棟	棟	棟 10	ha	箇所 2	ha
8. 9. 6	集中豪雨	東 部						2	77			
9. 6. 9	土砂崩れ	嬬恋村			3							
9. 6. 27	集中豪雨	沼田市						1	1			
9. 8. 2 ~8	集中豪雨							1	7			
9. 8. 29	集中豪雨	全 域						1	28			
9. 9. 11	集中豪雨	全 域						168	329			
10. 7. 23 ~24	集中豪雨	県内各地						5	31			
10. 8月末	集中豪雨	県北部			3		23	30	477			
11. 7. 4	集中豪雨	大胡町 粕川村						1	2			
11. 7. 12 ~15	集中豪雨	県北部						1	11			
11. 8. 13 ~16	集中豪雨	県内各地	1		4	4	7	49	560			
11. 8. 24 ~25	集中豪雨	県内各地						4	8			
12. 5. 2	集中豪雨 降雪	県北部						3	44		22	
12. 8. 6	鉄砲水	水上町	1		9							
12. 9. 8 ~12	集中豪雨	県北部			2			15	65		243	
12. 9. 17	集中豪雨	六合村 吾妻町 長野原町他						3	58		153	
13. 8. 27 ~29	集中豪雨	県内各地			2			20	149	9	137	
14. 8. 3 ~4	集中豪雨	県内各地						9	54	3	31	
14. 8. 6	集中豪雨 (突風)	前橋市				1						
14. 8. 25	集中豪雨	館林市						2	26			
14. 9. 4	集中豪雨	県内各地						14	122	5	31	

4.2 本県に被害をもたらした地震

発 生 日 時	地 震 の 記 録			被 害 状 況	
	名 称	震源地	規模等、震度	被 災 地 域	概 要
1916. 2. 22 18:12 (T05)	浅間山北麓 (名称なし)	36.5° N 138.5° E 15km	マグニチュード6.2	嬭恋村	嬭恋村で山崩れ、家屋全壊7、その他、大笹、大前などで半壊3、破損109、土蔵破損164
1923. 9. 1 11:58 (T12)	関東大地震 (関東大震災)	35.1° N 139.5° E 15km	マグニチュード7.9 倒壊家屋多数あり 震度4 前橋	関東各都県、静岡、山梨	家屋倒壊多数。死者10万人 県内の被害 負傷者 9 家屋倒壊49、半壊 8、一部損壊多数 鉄道、通信等被害大
1931. 9. 21 11:20 (S06)	西埼玉地震	36.2° N 139.2° E 3km	マグニチュード6.9 震度6 高崎、渋川、五料 震度5 前橋	県内全域 (南半-利根川流域に大)	死者 5、負傷者30 家屋倒壊168、半壊1,769、煙突倒壊155 山くずれ・橋梁破損55
1964. 6. 16 13:02 (S39)	新潟地震	38.4° N 139.2° E 34km	マグニチュード7.5 震度4 県内各地	利根郡、吾妻郡 (高山村で被害多数)	負傷者 1、家屋破損 公共施設(道路・堤防) 損壊
1993. 5. 21 11:36 (H05)	茨城県南部 (名称なし)	36.3° N 139.5° E 61km	マグニチュード5.4 震度2 前橋	館林市、明和村、板倉町	一部損壊37 公共建物の被害 3
1995. 3. 23 7:24 (H07)	茨城県南西部 (名称なし)	36.5° N 140.1° E 56km	マグニチュード4.9 震度1 前橋	板倉町	一部破損 2
1996. 12. 21 10:29 (H08)	茨城県南部 (名称なし)	36.1° N 139.9° E 53km	マグニチュード5.6 深さ53km 震度5弱 板倉 震度4 沼田、桐生、片品 震度3 前橋、富岡、吾妻	館林市、桐生市、太田市 前橋市、高崎市、板倉町 千代田町、大間々町、 明和村	一部破損46。 停電、鉄道運行一時見合わせ、関越自動車道速度規制等

4.3 浅間山噴火の歴史（昭和～平成）

年月日	被害地域	噴火の記録	被害状況
昭和3年(1928) 2月23日	浅間山周辺	16時45分大音響と共に爆発し、噴煙は東北東に流れ二度上附近では4～5分間にわたり大なるものは径6、7寸の降石あり(坪当り4～5個)灰砂礫は坪当り4升あった。	長野原町二度上附近、噴石による家屋の被害多く負傷者1名を出す。 (浅間山爆発史集)
昭和4年(1929) 9月18日	"	1時9分大音響と共に爆発し噴煙は南東に流れる。噴出溶岩は方半里に落下。	軽井沢追分附近等戸障子の落下挫折、ガラス破損等かなりあり。 (浅間山爆発史集)
昭和10年(1935) 4月20日 5月5日 22日 28日	"	16時21分大音響にて爆発、石樽山附近山火事、藤岡、富岡方面降灰活動活発にて噴煙本県側に流れて降灰量多し5月5日前橋にて89gr/m ³ 、5月22日69gr/m ³ 、28日坪当り1合5勺、11月7日藤岡にて40gr/m ³	国有林に延焼。追分附近が瓦破損あり (浅間山爆発史集) 降灰により桑、野菜に被害。(浅間山爆発史集)
昭和11年(1936) 3月～9月	"	9時33分噴火	噴出岩石のため3名の登山者中1名足を折り死亡 (浅間山爆発史集)
昭和13年(1939) 3月～9月	"	3月25日の爆発以来頻繁に爆発し降灰多し。9月26日山火事おこる。	農作物に被害あり。 (浅間山爆発史集)
昭和22年(1947) 8月14日	"	12時17分砲声音をたて爆発、山頂附近噴石落下し、また西側湯の平で山火事がおきる。	登山者11名落石で死亡、爆風で窓が瓦の破損あり (浅間山爆発史集)
昭和25年(1950) 9月23日	"	14時37分大爆音と共に噴火。噴火噴煙は、6,000mの高さに上り3km以内に火山弾が落下した。 噴煙は東南東に流れ降灰は宇都宮、東京におよんだ。 県内では赤城山以南の各地に降灰し量が多かった。	軽井沢附近窓が瓦の破損多く壁の落ちたものあり 登山者1名死亡 6名負傷 (浅間山爆発史集) (気象要覧)
昭和33年(1958) 11月10日	"	22時50分大爆発と共に大噴火。噴煙は、高度7,000mに達して東方に流れた。火山弾は3～4kmとび、風に流されたものは、東北東9kmの地点までとんだ。降灰は浅間山と沼田・藤田の線内であり、遠く太平洋まで続いた。	爆風によるが瓦の破損被害は16kmの地点にまでおよび次の被害があった。 被害戸数 2,305戸 が瓦破損 28,154枚 壁の破損 50坪 戸障子の被害 2,509枚 (浅間山爆発史集)
昭和34年(1959) 4月14日	浅間山周辺	20時30分大爆発 噴煙は高度7,000mに達し南東に流れた。火山弾は南側に多く、3.6kmに達した。降灰は東京・横浜にまで達した。	火山弾により山火事が発生し国有林61ヘクタールを焼失した。 (浅間山爆発史集)

年 月 日	被害地域	噴 火 の 記 録	被 害 状 況
昭和36年(1961) 8月18日	"	14時42分中爆発 噴煙は高度7,000mに達して南東に流れ 軽井沢附近も2cmの礫が降った。	登山者1名行方不明 火山礫、砂灰のため農作物に被害。 (浅間山爆発史集)
昭和48年(1973) 2月1日	"	19時20分中爆発 暗夜のため噴煙高度不明だが、火炎は500 mに達した。 噴煙は東南東に流れ東側にこぶし大の火 山弾、小石等が降り降灰は土浦、銚子に 及ぶ。	空振及び噴石により、千 ヶ滝附近の屋根、ガサ等 の破損が相当あり。 (浅間山爆発史集)
昭和57年(1982) 4月26日	富岡市、甘 楽郡全域、 万場町・中 里村・上野 村・鬼石町	2時25分噴火、引き続き微噴火が継続し 6時40におさまる。噴煙の高さ500mに達す る。小規模の火砕流あり。 降灰は左記地域のほか埼玉、東京千葉に 及ぶ。	降灰により県内左記地域 の「しいたけ」に被害が 生じた。 (日本活火山総覧第2版)
昭和57年(1982) 10月2日		9時58分微噴火 浅間牧場及び浅間園附近に降灰	被害は特になし。 (日本活火山総覧第2版)
昭和58年(1983) 4月8日		1時59分中噴火、爆発音、空振を伴う。 浅間山の周辺には火山礫が降り、山腹の 一部で山火事が発生した。 降灰は長野県、群馬県、関東北部、福島 県で観測された。	被害は特になし。 (日本活火山総覧第2版)
平成2年(1990) 7月20日		6時25分微噴火。 狭い範囲で微量の降灰。	被害は特になし。 (日本活火山総覧第2版)
平成15年(2003) 2月6日		12時01分極小規模噴火。少量の有色噴煙 が火口縁上300mまで上がり、火口南東の 斜面に微量の降灰。	被害は特になし。
平成15年(2003) 3月30日		1時54分頃極小規模噴火。少量の有色噴煙 が火口縁上300mまで上がる。火口南東 の斜面に微量の降灰。	被害は特になし。
平成15年(2003) 4月7日		9時24分頃極小規模噴火。少量の有色噴煙 が火口縁上200mまで上がる。	被害は特になし。
平成15年(2003) 4月18日		7時32分頃極小規模噴火。少量の有色噴煙 が火口縁上300mまで上がる。	被害は特になし。

4.4 草津白根山の活動の歴史

年 月 日	活 動 状 態
昭和2年12月31日	湯釜北壁下部に長さ100mの大きな割れ目を生じ、岩塊・火山灰・泥土及び多量のガスを噴出し、湯釜内の水面は14m低下した。
昭和3年1月29日	19時頃から活動を始めた。31日にも活動継続中噴出した硫黄が吾妻川から利根川に入り水が白濁し魚が死んだ。
昭和7年10月1日	14時頃に爆発。草津でわずかに降灰、火口付近では死者2、負傷者7、山上の施設破損甚大
昭和7年10月4日	1時頃噴火、附近に降灰。
昭和7年10月5日	噴煙
昭和7年10月6日	小活動
昭和7年10月8日	6時40分噴火、その後終日噴煙
昭和7年10月18日	10時20分噴煙
昭和7年10月23日	10時20分頃噴煙
昭和7年10月26日	1時17分頃噴火
昭和7年10月27日	9時 3分頃噴火、その後終日噴煙
昭和7年10月28日 " 10月31日	終日噴煙
昭和7年11月27日	4時10分頃爆発鳴動、15～20分間にわたり山麓において戸障子が振動し降灰あり
昭和7年12月1日	10時10分頃爆発
昭和7年12月28日	17時40分頃爆発
昭和7年12月30日	20時20分頃爆発

年 月 日	活 動 状 態
昭和7年12月31日	15時 5分爆発
昭和13年1月10日	ときどき噴煙
昭和13年11月6日	終日噴煙
昭和13年11月7日	"
昭和13年11月9日	14時50分頃噴煙
昭和13年11月15日	10時30分頃から終日噴煙
昭和13年11月19日	11時頃から終日噴煙
昭和14年	2月23日から噴煙が認められ、3月下旬から活動が急に盛んになり、4月中はほとんど連日噴火を繰り返し、しばしば降灰、特に4月11・19・24・30は活発、5月下旬頃から次第におだやかになった。
昭和15年4月7日	17時頃噴煙
昭和15年9月13日	16時頃噴煙
昭和16年1月19日	噴 煙
昭和17年2月2日	夕刻から翌朝にかけ活動し、水釜、湯釜、火口の東ないし南側外斜面に割れ目を生じた。活動時には噴煙、降灰があり、鳴動は草津町でも聞こえた。また、火口附近の施設破損。
昭和26年10月上旬	湯釜、火口の東外側斜面に2~3mの噴気孔が出現して、湯水たまり、噴気活動を行った。
昭和33年10月10日	湯釜に小規模の爆発
昭和38年	噴気活動の位置の移動、噴気活動はこの10年間余、湯釜の外側の南東斜面に中心があったが漸次水釜の外側の北斜面に移動し、湯釜の外側の南東斜面の噴気は休止した。また同時に濁っていた弓池の水は澄んだ。

年 月 日	活 動 状 態
昭和49年	異常噴気
昭和51年3月2日 発見3月11日	水釜北東部内壁より水蒸気爆発(直径50m、深さ10mの噴火口)、北東100mの範囲は降灰、2箇所の噴気孔ができた。なお、地震記録から17時59分に噴出活動が起こり、この後10分間にわたって、小さなものが続いたことが推定された。
昭和52年1月4日	14時26分頃、水釜東側で噴気が活発になり音を伴って噴煙を20m位上げた。また同時に白根山頂一帯で震度3~4の有感地震があった。
昭和53年1月1日	(無線式火山性振動装置による観測開始)
昭和57年10月26日	9時05分頃噴火、噴火地点は溜釜の北側と湯釜の西~北西~北側に至る数箇所。降灰は殺生河原、草津町、長野原方面で認められた。
昭和57年12月29日	5時38分頃湯釜北西岸で噴火、15時30分頃から弱まる。降灰は北東方面へ4km。
昭和58年7月26日	12時12分、湯釜の北西岸で噴火、鳴動を伴う。噴石は湯釜の内壁稜線を越えて湯釜の東外側に落下した。
昭和58年11月13日	11時40分、12時08分の2回噴火、爆発音を伴う。 噴火地点は湯釜北西岸と溜釜を連ねる弱線上、噴火口から600~700mの範囲に人頭大の噴石を放出し、駐車場、道路、地震計用埋設ケーブル等に被害があった。降灰は東南東方向約45kmまで観測された。
昭和58年12月21日	10時30分、湯釜から溜釜を連ねる弱線上の数ヶ所で噴火、噴煙の高さは300m、南東方向400mまで降灰があった。
平成元年1月6日	極小規模の火山活動があった。
平成8年2月7日	10時44分頃 湯釜湖面において、極小規模の表面現象が生じた。